

「家がいいね」 第74号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2010.7.19

「放題」は不自然の極み！

久しぶりの宴会に出席したら、「飲み放題ですから、どうぞ盛り上がって！」と言われました。考えたら、「放題」の勧誘策は多い。食べ放題、乗り放題、(携帯などの)使い放題、など。無料に近い安いと誘い、人を集めようとする。大盤振る舞いは無論のこと慈善ではありません。裏側では見返りを求める打算、損をして得を取ろうとする駆け引きが渦巻きます。結局、どこかにツケが回り、限りある生身の体や自然にとって「放題」は辛いものになります。見放題のテレビやインターネットは、持ち込まれる質の悪い情報で満載です。我々の頭には、限りある命を生きる平静さ、そのために「降りてゆく生き方」が必要と思われまふ。そして安いから選ぶのではなく、正当な対価を払い、共に生きてゆく消費生活が必要でしょうね。

時間の作法

金城学院大学学長の柏木哲夫先生は講演時間の厳守に決意を持って臨まれます。

研究会や学会では、多くの人が次々と演題を発表し、質疑応答も活発に行われまふが、柏木先生の時間の作法は「こういふ時こそ必要と思われまふ。制限時間が決められてるのに、大抵は遅れ遅れになります。発表の後半に位置する人は、自分の責任ではないのに、「発表時間を短縮して下さい」と無粋な圧力を自他ともに受けることとなります。」「司会・座長の不手際で申し訳ありません」と型通りの言い訳は入るが、誰に問題解決の責任を求めるかは曖昧なまま終わることになるのが、常日頃の有様です。



時間は人が共有する最大のものだと思います。自分ひとりが気持ち良く喋ることは、他人の時間を頂いてこそ出来る訳で、これこそ作法が必要だと思ひます。決めた約束の時間を守ることが自分に課せられた一番の誠意ではないかと思ひます。

お盆と死の世界の距離感

鳥取で対談「死を包む言葉」(徳永進、玄侑宗久、よしもとばなな、谷川俊太郎の各氏)を聴いた。行事としてのお盆では、死者との距離に死生観の違いが現れる。仏教での極楽浄土は限りなく遠く、10万億土の距離を49日でたどり着く計算では不思議なことにその移動速度は光速とほぼ同じになる。簡単に迎えて送る距離ではない。私たちの先祖が、もつと近い草葉の陰に暮らしているとの考えは別の観念らしい。目に見えるモノしか信じない人では、お盆は生きている親戚に会う休暇の意味だろうが、現世の移動距離と渋滞を、顔しかめつつ味わう。話変わり不思議な言葉。死後の世界を「あの世」と言うが、一度居た経験がある「あの」のように意味を使っていないか、と。

行く川の流れば絶えずして、

しかも、もとの水にあらず

方丈記より



宮川河畔にて



臨時外来休診

7月31日(土)と、お盆期間中の8月13日(金)14日(土)です。よろしく。

おしらせ1 がん患者のサロン 伊勢

毎月第3木曜日(次回8月19日)午後1時半当クリニックの隣の「縁(えにし)の家」にて2時間ほど、思っていることをお喋りしましょう。

おしらせ2 いのちの対話 当日参加可

「終わりよければ」いせの会の市民講座です。8月1日(日)13時~16時半、神宮会館「いのちの対話」柏木哲夫・内藤いづみ 当日も若干席はあります。500円です。付近は渋滞しますので、お早めにお出かけを。